

## 令和7年度 第5回 加古川市地域公共交通活性化協議会 議事概要

### ○開催概要

開催日時	令和8年3月11日（水） 午後2時から午後3時30分まで
開催場所	SHOWAグループ市民会館 大会議室
出席者	委員21名中14名、オブザーバー5名、事務局7名、傍聴0名
議事次第	<b>1 開会</b> 会議の趣旨 委員紹介 出席状況報告 <b>2 第4回協議会資料の要点まとめ</b> <b>3 議案</b> 協議第1号 加古川市地域公共交通計画における基本理念及び基本方針について 協議第2号 令和8年度加古川市地域公共交通計画策定業務の委託先について <b>4 その他</b> <b>5 閉会</b>

### ○議事概要

#### ■ 第4回協議会資料の要点まとめ

##### <説明概要>

第4回活性化協議会の資料からポイントを絞って、主に目的別、地域別の需要、地域環境、行政支出について改めて説明。

##### <意見・質疑応答>

(委員)資料p.11「加古川市の交通をとりまく現状と課題」で、「その他の移動サービス」について、「他分野との連携等、市民の移動の利便性向上が課題」となっているが、どのような移動サービスを指しているのか。自転車が想定されるなら、道路交通法の改正も含めて教えてほしい。

(事務局)「その他の移動サービス」は、医療分野、産業分野、福祉分野等の交通以外の分野との連携を考えている。具体的には企業の送迎バスや学校のスクールバス等の移動サービスとの連携は、手段として必要だと考えている。また、手段だけでなく施策として福祉や教育等の施策と連携しながら、今後の加古川市の公共交通を考えていくことが必要だろうということで記載している。

(委員)道路交通法の改正によって、自転車の交通ルール自体は変わらないが、これまで原付以上の乗り物に適用されていた交通反則通告制度（青切符）が自転車にも適用されることが大きな違い。

(委員)自転車の問題は大きな問題である。高齢者の自転車移動もあるが、車を運転できない中学生や高校生の自転車移動もある。

#### ■ 協議第1号 加古川市地域公共交通計画における基本理念及び基本方針について

##### <説明概要>

基本理念（案）として第4回活性化協議会に提示した「日々の暮らしの安心と楽しさをともにはぐく

み、ともに支える地域公共交通を目指して」からの変更はない。この基本理念（案）の実現に向けた基本方針では、加古川市の公共交通網を「木」に例えているが、現行計画からの変更点として、「日常生活に必要となる枝葉の交通が幹からも出る」形に概念図を修正し、概念図を基に基本方針の整理を行った。

施策体系については、29の施策（案）を示している。

#### <意見・質疑応答>

(委員) これまで民間主導型で行ってきた幹線で、バスの運行が厳しくなっている。タクシーはこれまでは私的交通の面が強かったが、本市においてはチョイソコかこがわ等のタクシー事業者との連携の中でタクシーの公共性が高まってきている。これらが現行計画との違いかと思う。枝と葉をひとつにしているのは、そのような背景がある。

今の市の考え方が幸福度をどう上げていくのかという観点に立って、楽しみ等を含めて考えているということが、現行計画との違いだと思う。

(委員) このイメージはわかりやすくよい。

広域幹線的手段として高速バスが示されているが、加古川市内で高速バスは運行しているのか。施策体系には記載がないように思う。

(事務局) 現在、姫路駅～加古川駅～関西国際空港を結ぶ神姫バスの高速バスがある。加古川駅を発着しおり、施策体系では加古川駅周辺再整備との連携が想定される。また、10年間の計画であり、今は東西の動きであるが、今後南北の需要等が高まれば、それに対応した施策も考えられる。

(委員) 姫路駅からバイパスまでの距離と、加古川駅からバイパスまでの距離をみるとわかりやすいが、加古川駅の方がバイパスに近い。姫路は駅にバスセンターがあり、状況は違うが、既存の東西軸に加えて、南北軸の東播磨道も整備されたことにより、これらのネットワークの要が加古川駅になるかもしれない。

(委員) 現時点で過疎化が進んでいる中で、10年先をみるとよりいっそう過疎化が進んでいると予想できる。共助等の細かい配慮がどう計画に反映されるのか危惧している。細かな配慮をしていただきながら将来展望を検討してほしい。

(事務局) ご指摘のとおり、人口減少が進展するなか、交通施策だけではまかなえない、実状に沿ったきめ細かな施策として挙げられるのが、公共交通を補完する移動ということで、地域住民・企業による乗り合わせ等や他分野との連携による移手段の確保について、今後10年先を見据え、現在検討を進めている。

(委員) これまでは、高齢者同士が買い物や外出でお互いが助け合い乗り合わせするなど、近隣の共助が機能していたが、年々高齢化が進み、高齢者同士の送迎による事故の懸念や自動車運転免許証の返納や若年層の減少など、共助による送迎が制限される傾向にある。移動支援を行政がすべて担うことは困難だと認識はしているが、緊急時等に対応できる仕組みを検討していただきたい。

(委員) 施策体系にバスベイの設置推進とあるが、現行の地域公共交通プランにも同じ項目が存在する。路線の見直しや、バス利用者の減少が進んでいる状況で、バスベイの設置を推進する意味合いを伺いたい。

(事務局) バスベイの設置推進は、現行の地域公共交通プランにも位置付けられている。これは、バスを利用しやすい環境を整備する目的で、道路や施設整備に合わせて実施する予定にしている。今後10年間に道路整備等の機会があるため、バス停設置予定箇所等にバスベイの設置を検討したい。

(委員) 意味合いとしては「今後新たに整備する路線」に対しての認識でよいか。

(事務局)新たな路線ができることで既存路線の交通量が減少する等、様々な状況が考えられる。状況に応じてバスベイの設定を検討していきたい。

(委員)高速バスについて、NEXCOのホームページには、権現湖パーキングエリアに高速バスのバス停がある。権現湖は加古川市が力を入れて整備している場所であるため、現在あるバス停を実際に機能させて岡山方面、名古屋方面など長距離路線が停車するようになれば加古川市へ遠方からの来訪者増加や利便性向上につながるのではないかと。

(委員)以前はバス停があり、両備バス等が使用していた。現在はバス会社の方針で乗り入れをしておらず、再開の目途もたっていない状況である。その高速バスの路線が再開すれば、追加で検討が必要になる。

(委員)地域によって高速バスの重要度は異なる。基本方針の概念図等では、拠点を「駅」にしているが、もう少し多様な考え方があってもいいのではないかと。

## ■協議第2号 令和8年度加古川市地域公共交通計画策定業務の委託先について

### <説明概要>

令和8年度の計画策定業務の委託先について、委員の意見を伺いたい。

### <意見・質疑応答>

(委員)プロポーザルは必須ではなく、令和7年度の調査業務の委託先から変えるというのも問題があるように思う。

(委員)10年前も同じ会社であり、悪いとは思わないが、視点が変わらないのではないかと。

(委員)10年前とは担当者も変わり、視点も変わっているように思う。理由として、1つ目は移動の楽しさという点が入っていること、2つ目は財政的な部分をしっかり検証している点である。

(委員)令和7年度の委託先について、何をもって良好と判断するのか。

(事務局)明確な基準はないが、提案された業務をすべて実施され、業務内容に問題がなければ良好と判断できる。

(委員)主な担い手が多様化するなか、どのような目標設定をして、どう評価するかという視点も含めて進めてもらいたい。

※今後10年間の状況をさらに深く考えてもらうことを条件に、引き続き令和7年度委託先に依頼することとなった。

### ■その他

(委員)兵庫地区のうち、明石以東を除くエリアで3月16日からタクシーの値上げが予定されている。タクシーの初乗り運賃1.3km 700円を1.2km 700円、250mごとに100円加算から225mごとに100円加算に変更となる。タクシードライバーの待遇改善のための値上げということでご理解いただきたい。

(オブザーバー)料金改定は収支率が赤字でないと改正してもらえない。タクシー事業は統廃合等も進み難しい状況である。枝葉を担うタクシー事業者としては、計画の中でタクシーの施策も検討してほしい。

以上